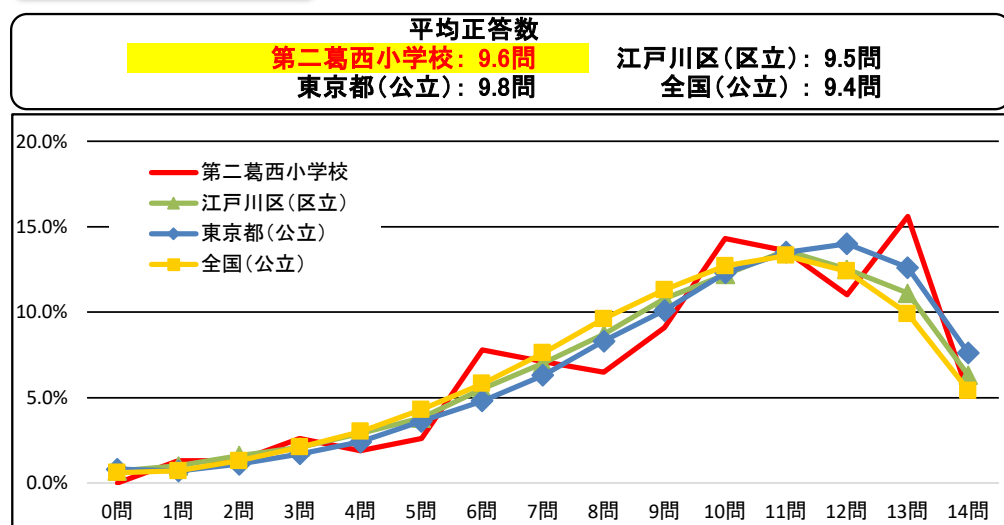


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】第二葛西小学校

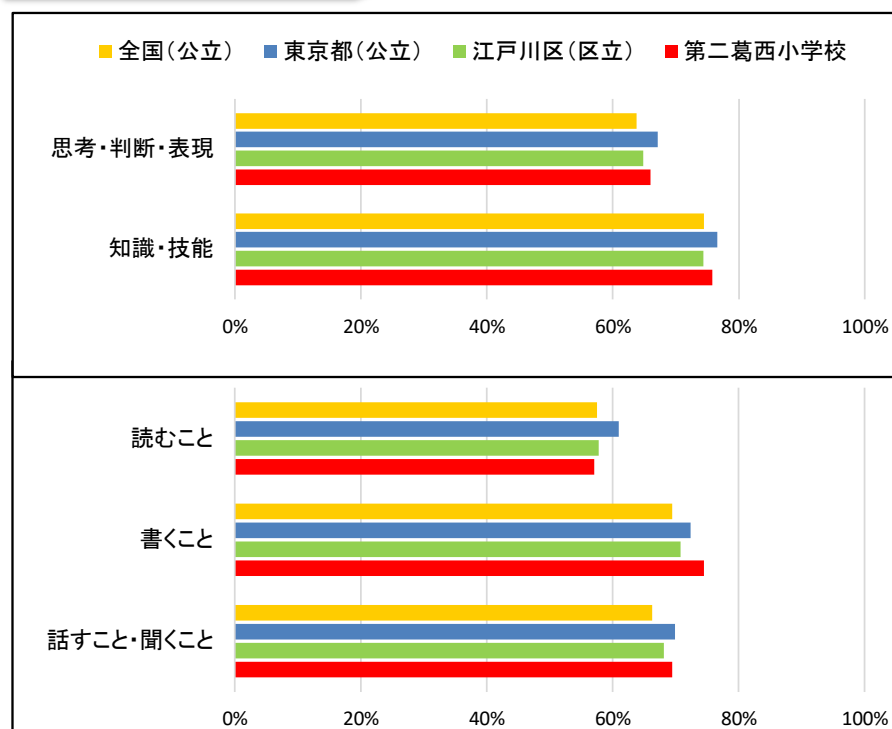
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

第二葛西小学校	69%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-1.0

「領域別」の結果

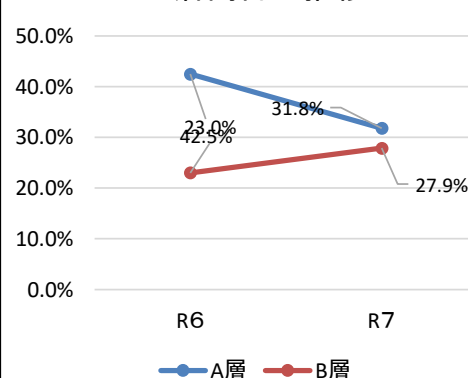


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

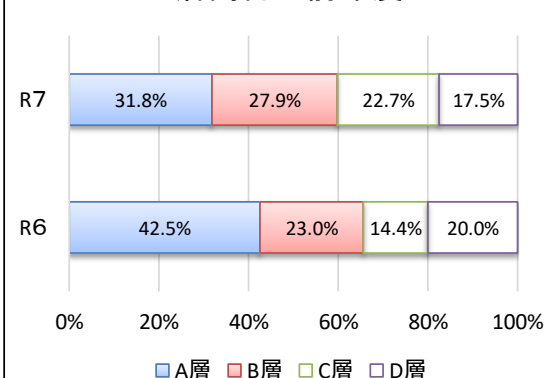
国 語	上 位 ← → 下 位			
	A 層 12～14問	B 層 10～11問	C 層 8～9問	D 層 0～7問
第二葛西小学校	31.8%	27.9%	22.7%	17.5%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

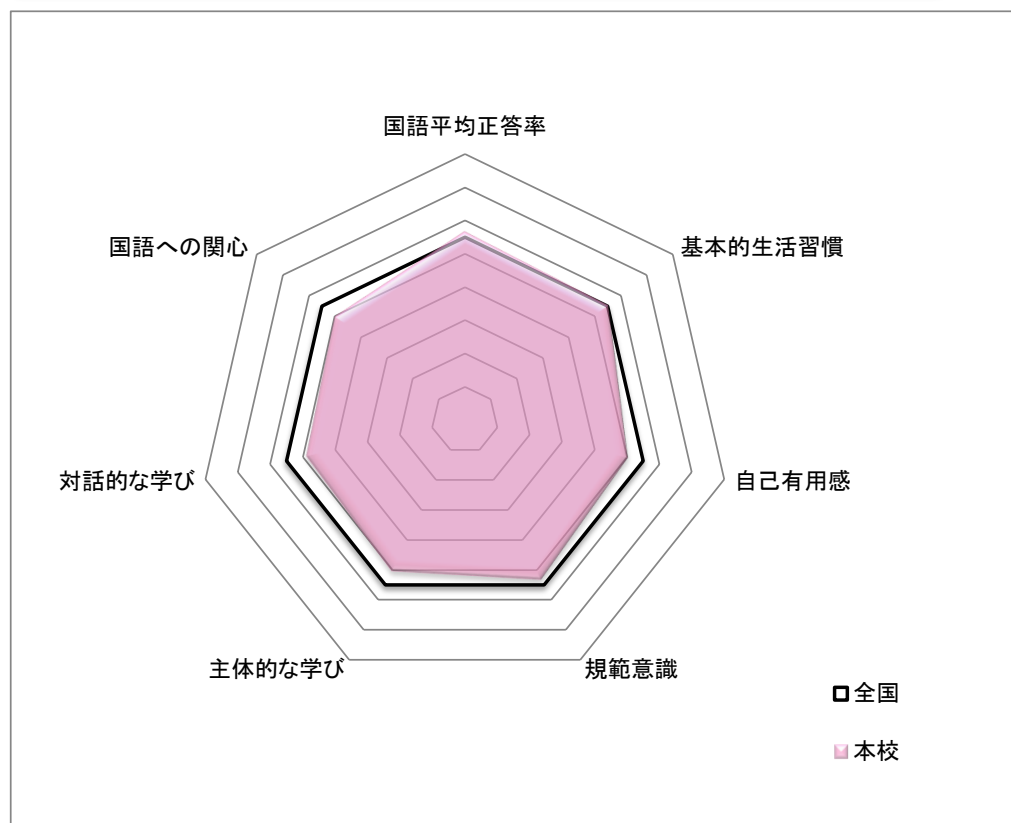
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

- ・国語平均正答率と基本的生活習慣は、平均を上回っている。
- ・他項目の肯定的な回答については平均を下回っている。特に国語への関心、自己有用感、主体的・対話的で深い学びを積み重ねているという実感が低い。肯定的な回答の根拠となる事実を確認していくことも有効であると考え。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・個人面談で児童一人一人の不得意とする学習内容についてを伝え、学校と家庭が協力して学力向上を図る。
- ・学校のホームページに調査結果を掲載し、今後の取組等を発信している。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
- ・昨年度に比べて、A層、D層の割合は減少しB層、C層の割合が増加している。このことから、一定の知識・技能はあるが、さらなる向上が見込まれる状況であると考えられる。
- ・平均正答率は、全国と比べると+2.2pt、東京都平均と比べると-1ptであった。
- ・国語への関心は高くはない反面、「国語の授業はよく分かりますか」「国語の授業は社会に出た時に役立つと思いますか」の質問に対しての肯定的な回答の割合は高い。
- ・本校は、本校の課題である「A・B層の育成」に向けた取り組みを行いながら、授業内容によっては、児童自身が学習方法や手立てを選択しながら行う自己調整的な学習《学校の取組》
- ・教員の指導力向上

- ・若手教員育成研修会を毎月1回実施している。教科指導、生活指導、教員としての在り方等について、主任教諭より講話を行い、自己研鑽の機会としている。
- ・校内研究授業を毎月1回実施している。教員は選択したテーマごとに分科会に分かれ、指導方法の探究のため研究を行っている。全ての教員が一年間の中で必ず研究授業を行うため、分科会ごとに検討を行うようにしている。

・基礎学力の保障

- ・毎週金曜日の放課後、児童が自主的に残って自習を行えるようにしている。この時間は、児童からの質問に教員が対応し、学習の理解度の向上、定着を図っている。
- ・高学年では読解力を向上させることを目的とし、YOMUよむワークシート(新聞記事)を基に設定された問題を解くことに毎週取り組んでいる。問題文の内容をよく読み、重要語句等や間違いやすいものには印をつけ、じっくり丁寧に読む練習を毎週積み重ねている。
- ・漢字テストを実施する際、児童が自らの目標点数を自ら決めるようにしている。目標に届かなかったものは繰り返し学習を促すことにより、漢字の定着を目指している。

・学習習慣の確立

- ・児童自身が家庭学習計画を作成することを通して、自らがどのように成長していきたいかの目標を立てられるようにしている。テストの有無や習い事の予定を考慮し、家庭学習の量や内容を自己決定させることで、学びの自己調整力を養う。自ら学習することの必要感をもたせることで、学習する習慣を身に付けさせていく。
- ・江戸川つ子study week!を通して、家庭学習の習慣の確立に取り組む。

・AB層の育成

- ・授業内容によっては、児童自身が学習方法や手立てを選択して行う自己調整的な学習に取り組んでいる。A・B層の児童にとっては、より探究的な学習をする機会となる。また、同じ問いに取り組んでいる児童間で、互いの考えを交流させることによって、より深い学びが得られるようにしている。